

業務のコリをほぐします

EXCEL VBA

実践教室

第6回

牧村 あきこ

MAKIMURA, Akiko

Office Makimura

<http://www.makim.net/>

シートをグループ別に表示する



複数のシートをグループ化する

Excelでは、ひとつのブックに複数のシートを保存することができますが、「シートを内容別に重みを持たせてグループ化する」といったことはできません。シートの枚数が多いときや、シート同士に親子関係を持たせたいときなど、シートをグループ化できれば便利に使えることもあるでしょう。

そこで今回は、できるだけ簡単に、かつ効果的にシートをグループ別に表示する仕掛けを作ってみたいと思います。



対象シートに仕掛けを作る

最初に、シートの具体的なイメージを解説します。

たとえば、都道府県名別のデータが収められている「宮城」「岩手」「東京」「神奈川」「埼玉」の5つのシートがあるとしましょう。ここでは、最初の2つと、後ろの3つのシートを、グループ化して東ねたいと思います。そこで、それぞれのグループの先頭に、親となる見出しシートを挿入します(図1)。実際に適用したいファイルに、すでに親となるシートが存

在している場合には、この操作は不要です。ただし、必ず親シートの右側に子シートが並ぶように配置し、グループ化したいシートのみがファイルに含まれるようにしてください。

さらに、親シートと子シートの区別がつくように、子シートの見出しを特定の色に変更します。ここでは「ゴールド」(ColorIndex番号=44)に設定しました。

これまでの一連の作業は、手動で行ないます。親シートを挿入したり、子シートの見出しの色を変えるだけなのでそれほど手間はかからないでしょう。

レベル >>> Level

1 2 3 4 5

ツール >>> Tool

- Excel 2002
- Excel 2003

言語 >>> Language

• VBA

サンプル >>> Sample

この記事で取り上げたソースコードおよびサンプルプログラムは、
<http://www.shoeisha.com/mag/windev/>
からダウンロード可能です。

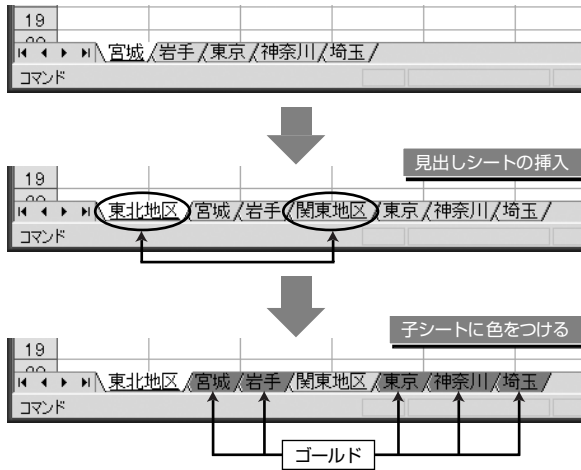


プログラムの実行イメージを確認

今回のプログラムでは、グループ別にシートの表示を切り替えることができるようになります。実際にプログラムの実行画面を追いながら、イメージを確認してゆきましょう。サンプ



図1：シートにグループ別の設定を施す



ルファイル「2006_11_ExcelVBA.xls」には、先ほどの例と同じ7枚のシートとプログラムが収められていますので、参考にしてください。

プログラムを実行すると、最初に作業シートの有無を問うダイアログボックスが表示されます。このプログラムでは、先頭に作業用のシートを配置して処理を行なうことが前提なのですが、一番最初にプログラムを実行したときや、すでに作業シートを削除してしまったときなど、作業シートが存在しない場合があります。このような場合は、「いいえ」を選び作業用シートを挿入します(図2)。

挿入された新規のシートには、現在のシート数のほか、それぞれのシートの「名前」「グループ番号」「親子番号」が一覧表示されています(図3)。グループ番号は「1」から順に始まりカウントアップしてゆきますが、同じグループの親子シートはすべて同じグループ番号となります。また、「親子番号」は親子シートを区別するための値です。「0」なら親シート、「1」なら子シートとなります。

◎ 特定のグループのシートのみ表示する

フォームのコンボボックスの「▼」ボタンをクリックすると、見出しとなる親シート名のリストと、一番最後に「すべて表示」というアイテムが追加されています。ここで表示させたいグループを選択し「決定」ボタンを

図2：作業用シートの有無を確認する

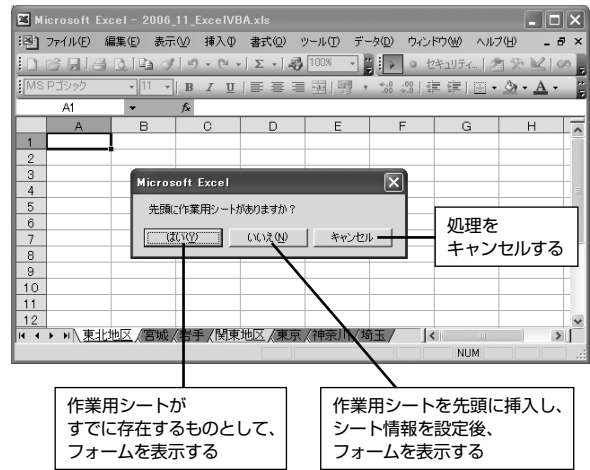
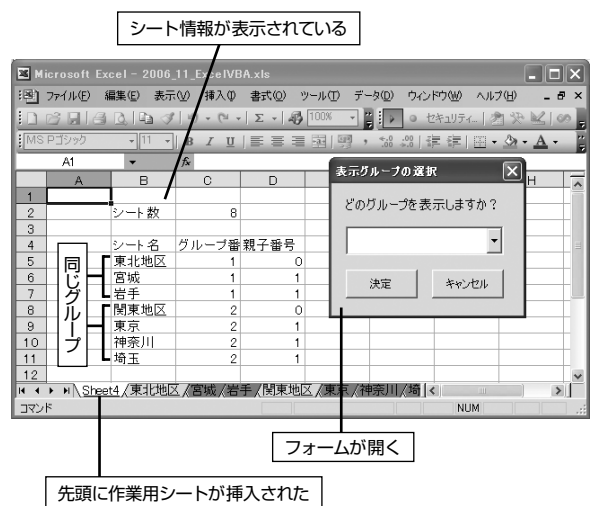


図3：グループ表示するためのフォームが開く



選択すれば、他のシートは非表示になり選択したグループのシートのみが表示できます(図4)。再度表示を切り替えたいときは、プログラムを実行し、作業用シートがあるという前提で操作すればOKです。

フォームを呼び出す
メインプログラムの作成

最初に、作業用シートのチェックを行ない、フォームを呼び出す「s_Set」サブプロシージャを作成します。

Excelのメニューから「ツール」-「マクロ」-「Visual